

## 新しい1年が始まりました

校長 田中 準三

2月に行われた「たかとり保育所」の生活発表会に出かけたときのことです。「田中校長先生！」私の名を呼ぶ子どもの声が響いてきました。普段から「校長先生」と呼ばれることは多いですが、名前をつけて呼ばれることはありません。しかも、それが保育所の子どもということで、とても感激でした。そのたかとり保育所をはじめ、多くの幼稚園・保育所から1年生が入学してきます。(1年生の保護者の皆様には「入学してきました。」というのが正しいですが・・・) 1年生にとって、学校が楽しい場所になるよう、職員が一丸となって子どもたちを支えます。

「おはようございます。」登校途中や校門の前で出会う子どもたちに声かけをする日常が戻ってきました。あいさつは「挨拶」と書きますが、「挨」も「拶」も意味は「押す」であり、「心を押し合うこと、通わせ合うこと」があいさつです。人と人とがコミュニケーションを図る上での潤滑油として、あいさつはなくてはならない大切なものです。

新しい1年が始まりましたが、年度の始まりは、子どもたちが新たな気持ちで「今年はこんなことを頑張ろう。」「絶対にこれを続けるぞ。」といった「やる気」をみせるときです。この「やる気」を持続させるのは、もちろん一義的には本人の意思の強さです。しかし、親の働きかけも大事な要素だと思います。先日、小学校4年生の児童が書いたという1つの詩を、ある書物で見つけました。

テストで100点とった／お母さんに見せた／「すごいね」「すごいね」とほめられた／うれしかった／テストで100点とったのがうれしかった／でもお母さんにほめられた方がよっぽどうれしかった

頑張ったことや良かったことは、ストレートにそれを褒めることが肝心です。褒められることは大人であってもうれしいものであり、ましてや子どもにとっては格別のものです。もちろんそれは学習に限ったことではありません。あらゆる機会を捉えて褒めることを意識し、子どもの「やる気」につなげてほしいと願います。新しい学年、新しい教科書、そして新しい気持ち……。子どもたちは今、目を輝かせています。子どもたちのより良き成長のためには、学校と家庭が手を取り合うことが必要不可欠です。今年度もよろしく願いいたします。